

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800340		
法人名	医療法人社団 小野病院		
事業所名	グループホーム レインボー		
所在地	喜多方市関柴町上高額字広面673-6		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者との「関わりの時間」を設け、利用者の希望に対応できる意向の把握に努めたケアに活かしている。職員は柔軟な業務内容をとっていることにより、地域のお祭りや催し物等に参加したり、周囲への関わりができるよう支援に努めている。また、週1回課外活動としてファミリーレストランやコーヒーショップなどへ行き、好きな物を選んでいただき食べていただくなど外出の機会を増やしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員研修を計画的に実施し、スキルアップを図りサービスの向上に努めている。
2. 献立の検討から食材の購入、下準備から配膳まで利用者と一緒に関わり、楽しい食事となるよう支援している。また、月1回利用者3人でチームを組み、食事を作って提供する機会なども設けている。
3. 週1回の課外活動として外出機会を設け、買い物や食事が楽しめる支援をしている。
4. 事業所内は広く、明るく、整理整頓され、利用者にとって居心地の良い生活環境となっており、利用者の表情も非常に明るい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に目標を立て、理念と目標を共有しながら、チームケアの実践を行っている。	事業所内に理念を掲示し、管理者と職員は業務会議や申し送りの中で理念と目標を共有しながら、自由にゆったりとした生活ができるよう支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、催し物への参加又季節の行事や法人関連施設との交流に努めている。	地域の自治会に加入し神社のお祭りや、作品展など各種行事に参加し交流を深めている。また、同一法人間での交流もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の生活の中で地域の高齢者の暮らしに役立つことはないか、常に職員と話し合い、ボランティアやご近所の方との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	入居者の状況、日々の取り組みや活動内容等の報告を行い、出された意見やアドバイスは、早期検討しサービス向上に役立っている。	定期的に運営推進会議は開催されており、災害時の対応や感染症の予防などの意見を、職員で検討してサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の連絡協議会へ参加する事で情報を共有し、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の中での情報交換、利用状況の定例的な報告や福祉関連用品の購入相談を行うなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。又、マニュアルを活用し、勉強会を実施し身体拘束を行う事がないよう取り組んでいる。	勉強会を通して身体拘束が心身に及ぼす悪影響について認識し、身体拘束をしないケアに努めている。日中の玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、虐待防止について勉強会を開催し、職員が理解した上でケアしている。入浴時には、全身の皮膚観察を行っている他、職員の言葉で嫌な思いを抱かせる事がないよう、精神的虐待についても注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を持ち、制度について学び、在宅介護支援センター職員と相談しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項・契約書等の説明を行い、納得を頂いて締結が行えるよう配慮している。契約後に疑問や不安等があれば、いつでも対応していることを伝えている。料金改定の際は、その都度説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族代表にもご参加いただき、意見交換をしている。又、玄関に意見箱を設置し、今後の参考にさせていただいている。	管理者と職員は気軽に話せる環境づくりに努め、利用者や家族から意見や要望を聞いている。また、運営推進会議の中で意見や要望を聞き、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し、職員が発言できる機会を設けて、業務に反映させるようにしている。	管理者は、職員会議やミーティングなどを通して意見や要望を聞いている。また、必要に応じて個別面談などを行い、意見や要望、悩みなどを聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持ちながら、業務に当たれるよう努めている。現場からの不満の声に対しても話し合っ改善している。家族の都合にも配慮し、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内での勉強会の参加など、勉強できる環境が整っており、交代で参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の連絡協議会への参加で、管理者同士の交流の場や課題等を持ち寄り情報交換を行いながら、サービス向上にむけ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に実態調査に出向き、ご本人やご家族、利用されていたサービス担当者から話を聴き、生活する場として新生活での不安がないように面談時には、傾聴・共感・受容に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時、本人、家族が抱えている不安や問題等少しでも不安なくサービスが利用できるように話し合い、できる限り共感・受容に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の要望、不安、悩み等を十分に聴き、必要としている支援を見極め、安心して生活していただけるよう努めている。 又、センター方式シートを活用し、支援につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が何を望まれているか確認しながら、お互いに尊重しあい、より良い関係作りに努めている。「やってみたい」という声を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況状況を兼ねた、ホーム便りを出している。面会時には、本人の思いや行事への参加などの声かけをし、より良い関係作りが継続できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事、催し物等への参加やご家族に協力を得て、馴染みの場所へ連れて行っていただいたり、職員と出掛けたりして、関係が途切れないよう支援している。	事業所と家族とが協力し合い、食事や買い物、自宅訪問やご近所宅訪問などで、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しやすい入居者には、職員が間に入り、入居者同士がより良い関係が作れるよう、活動を通して支えあい、助け合って生活ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所から、その後の様子を伺ったり、ご家族からも本人の状態等の報告を頂いている。気軽に立ち寄っていただけるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを実施し、本人の希望や意向を伺い、希望に添った支援ができるよう努めている。それぞれ入居者に担当職員をおき、意見をいただき、本人の意向を把握している。	アセスメントを実施し本人の希望や意向を把握するとともに、担当職員が日々の会話や行動などから、希望などを把握して本人本意に検討している。	
24		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式(アセスメント)の活用により、それまでの歩みや暮らしを把握し、職員同士情報を共有しながら、生活環境を大切にすることに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常生活を毎日記録し、ご家族には面会時や電話にて報告している。又、職員間では申し送り等で現状を把握共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今までの生活歴、これからの希望、現在の心身の状態を把握し、本人、家族と話し合い、介護計画を作成している。3カ月に一度カンファレンスを行っている。	アセスメントなどを通して、本人や家族の思いや意見を取り入れ課題に対して話し合い、意向に沿った介護計画を作成している。また、体力の低下など状態変化に即した計画の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各担当職員が月に一度記録している。状態に変化があった時は、その都度記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族の希望があれば、突発的なニーズ等にも柔軟な業務体制を取り、状況に応じた支援を行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して暮らしが続けられるように、運営推進会議やボランティアの来所等、様々な形で支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を伺い、特に申し出のない場合には、協力医療機関の説明をし、その機関の医師をかかりつけ医にする事に同意を頂いている。	入居時にかかりつけ医の希望確認と協力医について説明し、利用者と家族の希望に添った医療機関を選べるよう支援している。協力医への通院は付き添い支援を行い、受診結果は電話などで報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護職員とホーム職員との情報を共有しあうことにより、個々の入居者が適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関医師や看護職員と病状等の情報交換、早期退院に向けた話し合い等が出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人並びに家族の意向を尊重し、医療機関を相談しながら方針を共有している。状態の変化があればその都度話し合うことに努めている。入居者が重度化した場合や終末期に向けての方針を作成した。	利用開始時に本人、家族に対し重度化や看取りに関する指針を説明しているが、事業所としてその支援体制や協力医療機関などの連携体制がとられていない。	事業所で定めた看取りに関する指針について、早い時期に全職員で話し合いを行い、考え方を共有し指針に沿った体制づくりに努めてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的に勉強会を通し、急変時や事故発生時に即対応できるよう備えている。又、消防署にて普通救命救急の受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者が安全に避難できるよう2ヶ月に1回昼夜想定で、様々な場面を想定し訓練を行っている。又、非常時の役割分担についても点検している。	夜間を想定した火災訓練と地震を想定した避難訓練を実施しているが、消防関係機関など協力を得た訓練は実施していない。非常災害時の備蓄品は準備している。	消防関係機関などの協力を得ながら、風雨水害などを想定した訓練を実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し言葉掛けには十分配慮している。気付いた時にはその都度職員間で話し合い注意し合っている。	利用者の人権や誇り、プライバシーを損なわないケアについて、研修や会議を通して全職員で確認し共有しながら、利用者が生活の中で自己決定しやすい支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや訴えに耳を傾け自己決定を尊重した働きかけを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にあったペースやリズムに配慮しながら、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに応じたお洒落が出来るよう支援している。一人でできない方には職員と一緒にやっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理から盛り付け、配膳までそれぞれが役割を持ち行って頂けるよう支援している。入居者の好みに応じたメニュー作りにも参加して頂き、食事が楽しみになる様工夫している。	食材の購入から食事までの一連の作業に、各利用者の能力を発揮して頂き、作る楽しみ食べる楽しみを共有しながら、楽しい食事となるよう支援している。また、利用者がグループで献立を工夫して、食事づくりができる機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェックし記録に残している。入居者の個々に合わせた刻み等にするなど、それぞれの身体状況に合わせた食形態に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがいの声かけをしている。夜間は義歯を預かり洗浄を行っている。口腔ケアの出来ない方は職員と一緒にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に合った声かけや、トイレ誘導を行っている。又、自立に向けおむつ外しにも取り組んでいる。	排泄チェックや表情、仕草などから利用者の排泄パターンを把握し、羞恥心やプライバシーに配慮した声かけやトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトや牛乳及び食物繊維含有食品等を取り入れ実施している。水分摂取量も気をつけている。又、体操を行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人一人の要望に配慮しながら支援している。又、入浴を拒まれた場合は無理強いせず、足浴・清拭などの対応を行っている。	利用者の希望に添った入浴支援を行っており、入浴を好まない利用者には、清拭や足湯などで対応し、くつろいで入浴が出来る雰囲気づくりに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活のリズムを把握し、安心して休めるよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬一覧を個々のファイルに保存し、いつでも内容を確認できるようにしている。又、内服薬変更時には申し送りやノートに記入している。協力医療機関医師にいつでも相談出来る体制にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりの中で、入居者の能力、得意分野に応じて活動を促している。季節に応じた行事、レクリエーション参加など楽しみを持って生活して頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	課外活動を設けており、外出の機会がある。又、買い物やドライブなどにも行かれ、他の方とふれ合っている。	日常的な買い物支援と定期的な外出活動を設け利用者の意向に添った外出支援を行っている。また、家族の協力を得ながら食事や温泉などに出かけられるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と話し合い対応している。外出時にはお金を持ち支払う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使用できる公衆電話がある。又、家族からの電話や手紙などあればいつでも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差し等の眩しさは、ロールカーテンで調整し、照明の強度或いは、テレビのトーンは、入居者の希望に応じて、対応している。四季折々の飾りつけがあり、居心地の良い空間になっている。	広い共用空間には利用者の共同作品がさり気なく飾られ、採光に配慮した明るく落ち着いた生活空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナー、和室等自由に利用者で気の合った入居者同士でくつろいで頂ける空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自宅で使用していた、大切にしていた物を持ち込んでいただきその人にあった環境作りに心がけている。全部屋個室になっておりプライバシーは確保されている。	自宅で使い慣れた物や大切な物など、自由に持ち込めるが、家族写真や作品などを飾り、シンプルな部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには、それぞれ好みの花を飾ることで自室の間違いが少ない。ホーム内バリアフリーになっており入居者本位の安全な環境になっている。		